

# イチゴ新品種 ‘紀の香’ の優良苗生産技術の開発

農業試験場 主査研究員 田中 郁

## 【要約】

‘紀の香’の優良苗を安定生産するためには、親株の葉数を16枚以上で管理してランナーの発生を促進するとともに、6月中旬以降の育苗期間を通して50%程度の遮光を行うことが有効である。また、不時出蕾抑制のため苗受けは6月下旬以降とする。

## 【背景・ねらい】

‘紀の香’の育苗時の問題点として、ランナー発生数が少ない、ランナーの先枯れ発生、育苗後半の不時出蕾やランナー切り離し後の草勢低下による枯死子苗の多発が挙げられる。

そこで、効率的な苗生産のため、育苗期の親株および子苗の適正な管理技術を開発する。

## 【成果の内容・特徴】

1. 親株の葉数はランナーの発生数および採苗数が多かった16枚以上が適している(表1)。
2. 50%程度の遮光によりランナーの先枯れは抑制できるが、長期の遮光でランナー発生数が減少するため、遮光の開始は6月中下旬からとする(表2)。
3. 苗受けを6月中旬に開始した場合、不時出蕾の発生が多いため、親株を多めに用意したうえで苗受けは6月下旬以降とする(図1)。
4. ランナー切り離し後、50%程度の遮光下で管理することで子苗の枯死を軽減できる(図2)。

表1 親株の葉数がランナー発生数に及ぼす影響(R4)

親株葉数	親株からのランナー発生数 (本/株)	採苗数 <sup>z</sup> (個/株)
8枚	7.2 ± 0.2	10.3 ± 0.3
12枚	8.8 ± 0.2	11.5 ± 0.2
16枚	9.7 ± 0.2	12.8 ± 0.3
無処理	9.3 ± 0.2	13.2 ± 0.2

※数値は平均値±標準誤差、n=18、苗受け開始日：6月14日、調査日：7月12日

<sup>z</sup>：1mm以上の発根があり、ポット受けした子苗の数  
6月1日からクールホワイトを展張（SW620、遮光率50%）

表2 遮光期間がランナー発生数および先枯れ発生率に及ぼす影響(R3)

処理区	遮光開始日	ランナー発生数 (本/株)	先枯れ発生率 (%)	採苗数 (個/株)
長期遮光	6月1日	8.4	14.8	15.4
短期遮光	6月29日	12.4	17.2	20.3
遮光なし	-	15.8	57.5	16.3

※苗受け開始日：6月1日

遮光開始日から7月19日（調査日）までの間、遮光率50%の黒色遮光ネットで親株および子株全体を覆った。

※ランナー発生数：ランナーの先端数をカウント

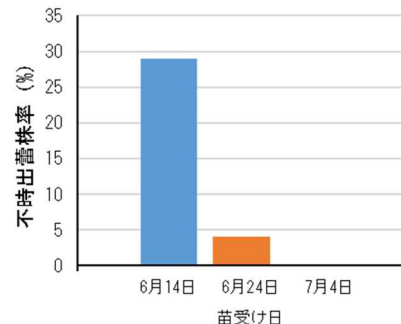


図1 採苗時期と不時出蕾株の発生(R4)

※調査日：9月8日、n=100

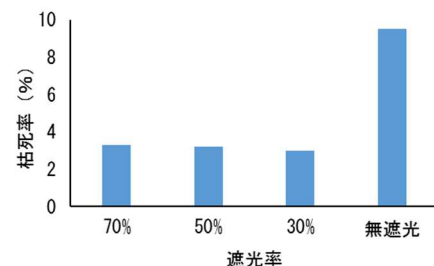


図2 ランナー切り離し後の子苗の枯死率(R4)

※P0フィルム（遮光率15%）で被覆した簡易雨よけ施設で栽培

遮光資材：クールホワイト 30%：SW420、50%：SW620  
70%：SW1020